

# ノーサイト

東ティモールでは、6月22日、62歳の元前大統領・元国軍司令官のタウルク・マタン・ルアカク氏が新首相に就任。これからの5年政権を担います。

今年72歳になった国父グスマン氏は、新設の「筆頭上級國務大臣兼首相顧問大臣」に、閣内にあつて首相・閣僚を強力に支えます。

アジアで一番新しい平均年齢18歳の若い国、2002年5月の独立回復から16年目を迎えた東ティモール。民主国家・平和国家として国づくりの真つち中ですが、懸案は山積です。

急務は、教育・人材育成と基礎インフラの整備。そして所謂「資源の呪い」に陥ることのないよう自国産業を振興し、沢山の若者の雇用も確保して行かなければなりません。格差の拡大が指摘

される地方の皆さんの生活環境の改善は待ったなし。国民が、独立して良かったなああと等しく実感できるような国にしなければなりません。

そしてグスマン氏が驚異的なリーダーシップと政治力・交渉力を発揮して、東ティモールに多大な成果をもたらしたオーストラリアとの間のグレイターサンライスガス田に関わる海の国境線画定。今後は、同ガス田の具体的な開発をどうするか、オーストラリアとの間でどう決着させようか。莫大な予算を要する大型プロジェクトだけに、グスマン氏とルアカク氏の閣内での周到な調整が力ナメです。もう一つのビッグプロジェクト、かつて自衛隊PKO部隊が活動した飛び地のオエクシ特区の開発も失敗は許されません。

出遅れています。官民を導いた精力的なアプローチを訴えたいと思います。

一方、国際的にも東ティモールは正念場を迎えています。その第一はASEAN加盟。2011年の正式加盟申請から早や7年を経過しています。東ティモール自身が、自らをもって加盟できる態勢にもって行かなければなりません。ここにASEANを重視し育てて来た日本であればこそ可能

な、いわばASEAN加盟を先取りした、時宜を失しない支援の仕方があると思えます。

かつて国際社会から成功しなげらうと見られていた東ティモールの独立回復

ちなみに、こうした東ティモールの国づくりに対する日本企業の進出は、中国や韓国企業等に比し著しく

## 頑張れ！東ティモールの新政権

独立回復と同じ価値を有する国づくり。卓越したり一貫したリーダーシップのもと、国民が団結して国づくりに取り組むとき、東ティモールは必ずや大きな飛躍を遂げることを確信します。

ここで、ルアカク新首相について一言。東部の僻地パギア出身。清廉潔白、誠実な人柄。訪日経験も多く、女児を日本の幼稚園に通わせたほどの親日家。学びの場はシヤングの格差。地方の皆さんは「私たちの首相として、ルアカク首相に対する期待は大きいものがあると思えます。」

またルアカク氏は、全国442の村々全てを自ら足で訪問し、住民と意図を交換・生活環境の実態把握に努めて来ました。

## 北原巖男

北原 巖男 (きたはら いわお)

中央大学。70歳。長野県伊那市高遠町出身。元防衛施設庁長官。元東ティモール大使。現(一社)日本東ティモール協会会長

こうした経験も踏まえ、次代を担うあらゆる階層の子供たちや若者たちの教育・人材育成を重視し、與様共々尽力を続けています。

ちなみに2010年、東ティモール国軍兵士を初め